令和８年度　第５回広島市感染症対策協議会

【日　時】　令和８年 11 月 16 日（月）19:00～20:00
【場　所】　広島市役所 14 階第７会議室
【出席者】　小林　正夫、坂口　剛正、石川　暢久、吉岡　宏治、髙橋　宏明、佐藤　貴
　　金子　朋子、大橋　信之、山下　正博、梶梅　輝之、長岡　義晴

１　感染症に関する最近の情報

(1)　インフルエンザの流行状況について（資料１ Ｐ１ ～ ４ ）

インフルエンザについては、広島市感染症発生動向調査において、第 45 週(11 月 2 日～8 日)の患者報告数は 1 医療機関当たり 7.85 人と、注意報レベルには達していないものの、依然として多い状況が続いている。

広島県においては、福山市保健所管内で第 40 週（9 月 28 日～10 月 4 日）の報告数が注意報開始基準値（定点当たり 10）を上回ったため、既に「インフルエンザ注意報」が発令されている。

また、本市におけるインフルエンザ様疾患による学級閉鎖等の報告については、令和８年８月 31 日に最初の報告があり、第 45 週時点で 65 件に上る。

本市としては、引き続き市民に対して手洗いや咳エチケットの励行など、インフルエンザをはじめとする急性呼吸器感染症の感染予防対策を徹底するよう市のホームページ・SNS 等、広報媒体を活用し呼びかけていく。

(委員意見)

・　気温の低下に伴い患者数の増加が見込まれることから、引き続き流行状況に注視していく必要がある。

(2)　重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の発生状況と最近の国の動向について（資料１ Ｐ５ ～ 17 ）

本市においては、2019 年以降毎年発生が見られ、今年は第 45 週（11 月 2 日～8 日）時点で 3 件の報告がある。全国では第 44 週（10 月 26 日～11 月 1 日）時点で 164 件の報告があり、近年は報告数が 100 件を上回る状況が続いている。

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026*
広島市	0	1	3	1	2	2	2	1	3
全　国	77	102	75	111	116	134	121	192	164

***2026 年は広島市第 45 週時点、全国第 44 週時点**

また、10 月 7 日、国は「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A」の更新について事務連絡を発出した。この度の更新において、一般の方、医療機関・検査機関の方、獣医療従事者等の専門家の方向けに、それぞれ SFTS ウイルスへの曝露後の健康管理に関する項目が追加されている。

本市においても毎年 SFTS 患者の報告がみられていることから、今後もホームページ等を活用した注意喚起を継続するとともに、関係機関との連携を図りながら、SFTS をはじめとするダニ媒介感染症の予防啓発に取り組んでいく。

(委員意見)

・　今後、ワクチン開発の進展に注目したい。

⑶　本市における梅毒の発生状況について（資料１ Ｐ 18 ～ 26 ）

本市における梅毒報告件数は、2015 年以降年々増加し、2018 年に初めて 100 件を超えた。2022 年(317 件)、2023年(272件)の急増していた時期と比較すると、2024年(161件)からやや発生件数が落ち着いているものの、今年においても第 45 週（11 月 2 日～8 日）時点で 101 件と、100 件を超えており依然多い状況が続いている。

患者の男女別では、過去 5 年間に報告された 1004 件のうち 68.1 パーセントが男性となっている。患者の年齢階層別では、男性は 20～50 代と幅広く見られるのに対し、女性は 20 代が多く見られ、若い患者が多い傾向が見られた。

感染原因では、過去 5 年のうち約 93%が性的接触で、そのうち 8 割以上が異性間での感染であった。

本市では、12 月 1 日の「世界エイズデー」の機会を捉え、12 月 5 日（土）に受検希望者等がアクセスしやすい市内中心部の医療機関において、HIV/エイズと梅毒の無料・匿名の臨時検査を実施予定である。

引き続き保健センターにおいて無料・匿名で HIV/エイズと併せて梅毒の迅速検査を行うとともに、ホームページ等で市民への普及啓発を継続し、今後も様々な機会を捉え、予防及びまん延防止に向けた啓発に努めていく。

(委員意見)

・ 臨時検査を通じて、より多くの方の受検につながることを期待する。

２　１０月の定点把握対象感染症発生状況《公開》（資料２、３）

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

３　全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病　　名	令和８年10月分	令和８年11月分
		報告日 10/5～11/1	報告日 11/2～11/9 現在
２類	結核	６人 （結核 ４人，潜在性結核２人）	３人 （結核 ２人，潜在性結核１人）
３類	腸管出血性大腸菌感染症	４ 人(1 人(10/5),1 人(10/22),1 人(10/24),1 人(10/26))	
４類	E 型肝炎		２人(1 人(11/2),1 人(11/6))
	日本紅斑熱	２人(1 人(10/13)，１人(10/26))	
	レジオネラ症	９ 人(1 人(10/8),1 人(10/9),2 人(10/13),1 人(10/14),1 人(10/15),1 人(10/18)1 人(10/26),1 人(10/31))	３ 人(1 人(11/2),1 人(11/6),1 人(11/9))
５類	アメーバ赤痢	１人(10/6)	
	ウイルス性肝炎	１人(10/20)	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	１人(10/13)	
	急性脳炎	１人(10/19)	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	１人(10/8)	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	２人(1 人(10/8),1 人(10/26))	
	侵襲性肺炎球菌感染症	４ 人(1 人(10/20),2 人(10/22),1 人(10/26))	１人(11/9)
	多剤耐性緑膿菌感染症	１人(10/6)	
	梅毒	６人(1 人(10/13)，１人(10/16)，１人(10/20)，１人(10/27)，２人(10/28))	３ 人(1 人(11/2),1 人(11/4),1 人(11/6))

（ ）は届出日

４　その他《公開》

次回開催予定日　令和９年１月 18 日（月）　14 階第７会議室

【資料】

資料１：最近の感染症情報

資料２：10 月の感染症の概要

資料３：定点把握五類感染症（月報対象）の長期的変動

広島市感染症対策協議会コメント（１１月分）

令和８年１１月１６日

１　患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、10月は9,520人であった。そのうち、急性呼吸器感染症（ARI）を除いた患者報告数は1,606人で、前月比0.97とほぼ横ばいであった。

水痘は増加、インフルエンザ、ＲＳウイルス感染症、咽頭結膜熱、急性呼吸器感染症(ARI)はやや増加、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナはほぼ横ばい、感染性胃腸炎はやや減少、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)、手足口病、突発性発しんは大きく減少した。

(2) 特記事項

● インフルエンザは、第45週(11月2日～8日)に定点当たり7.85人の報告があった（図1）。また、今シーズンのインフルエンザ様疾患による学級閉鎖等は11月8日時点で累計65件報告されている。県内のインフルエンザ注意報（10月8日発令）は継続しており、今後も更なる流行の拡大が予測されるため、手洗いの励行、咳エチケットなど感染予防対策を徹底する必要がある。市内2か所の協力医療機関による迅速診断キットの検査結果では、今シーズンはＡ型が489人、Ｂ型が2人と、Ａ型がほぼ100％を占めている。また、広島市衛生研究所によるARI病原体サーベイランス検査では、今シーズンはインフルエンザウイルスAH1pdm09亜型が28件、AH3亜型が2件検出されている(第45週現在)。

● 感染性胃腸炎は、第45週に定点当たり5.14人の報告があった（図2）。また、学校等における集団発生が第45週に1件報告されている。こまめな手洗い、便・吐物の適切な処理などの感染予防対策を徹底することが重要である。

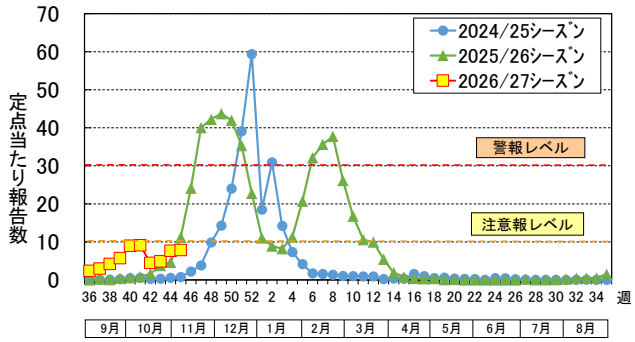


図１ インフルエンザの流行状況

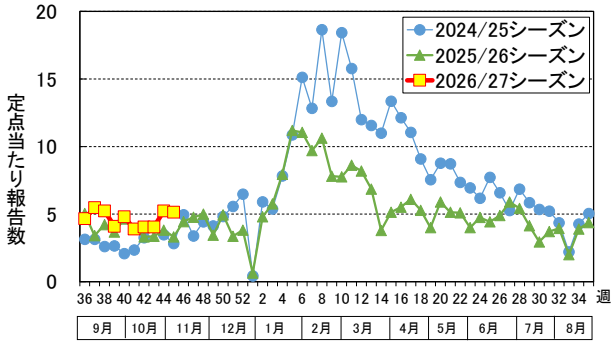


図２ 感染性胃腸炎の流行状況

● 水痘は、第45週に定点当たり0.57人の報告があった。年間報告数は、新型コロナウイルス感染症が流行し始めた2020年は例年を下回り、2021年から2023年は低い水準で推移していたが、2024年以降は以前の水準に近づいている。予防にはワクチン接種が有効であり、定期接種対象者は早めに接種することを推奨する。

● 腸管出血性大腸菌感染症の今年の累計報告数は、11月8日時点で56件となった。血清群別ではO157が26件と最も多く、次いでO103が11件報告されている。感染予防には、加熱が必要な食品の十分な加熱、野菜・調理器具の洗浄や手洗いの励行などの対策を徹底することが大切である。

● レジオネラ症の今年の累計報告数は、11月8日時点で37件となり、昨年の年間報告数31件を既に上回った。また、2000年以降最多となる年間39件の報告があった2018年（同時期35件）を上回るペースで推移している。循環式浴槽、加湿器、冷却塔、入浴施設などによる感染事例の報告があり、これらの適切な維持管理を徹底することが重要である。

(3) １０月の１類～５類感染症（全数報告）患者発生数

１類感染症：なし
２類感染症：結核6件（患者:4件、潜在性結核:2件）
３類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 4件
４類感染症：日本紅斑熱 2件、レジオネラ症 9件
５類感染症：アメーバ赤痢 1件、ウイルス性肝炎 1件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 1件、急性脳炎 1件、クロイツフェルト・ヤコブ病 1件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2件、侵襲性肺炎球菌感染症 4件、多剤耐性緑膿菌感染症 1件、梅毒 6件

(4) 今後の流行予測

インフルエンザ・・・【流行中】

２　検査情報

10 月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	A 群溶血性レンサ球菌 UT	8 月	1 人
ヘルパンギーナ	*1 コクサッキーウイルス A6 型	7 月	1 人
	*1 パレコウイルス 1 型		
その他の消化器疾患	*2 EB ウイルス	8 月	1 人
	*2 ライノウイルス		

*1～2：複数病原体検出例

3 人の患者から 4 種類のウイルス 4 株、1 種類の細菌 1 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、コクサッキーウイルス A6 型、パレコウイルス 1 型、EB ウイルス、ライノウイルスが各 1 株であった。検出細菌の内訳は、A 群溶血性レンサ球菌 UT が 1 株であった。

３　感染症法５類全数把握薬剤耐性菌感染症患者からの分離菌株解析結果(2026.4～10 月分)

(1)　カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）感染症

届出年月	年齢	区	症状	分離検体	菌　種	カルバペネマーゼ遺伝子※1
2026 年 6 月	78	中	創感染	創部浸出液	*Klebsiella oxytoca*	検出せず
2026 年 9 月	97	安佐南	尿路感染症	尿	*Serratia marcescens*	検出せず
2026 年 10 月	43	南	腹膜炎	腹水	*Enterobacter* 属菌	検出せず

※1 検査対象カルバペネマーゼ遺伝子型：KPC, IMP, NDM, VIM, OXA-48, GES, KHM, SMB, IMI

6 月、9 月及び 10 月に各 1 件の届出があった。分離菌株は *Klebsiella oxytoca* 、*Serratia marcescens* 及び *Enterobacter* 属菌が各 1 株であり、全てカルバペネマーゼ遺伝子は不検出であった。

(2)　バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）感染症患者

届出年月	年齢	区	症状	分離検体	菌　種	耐性遺伝子
2026 年 4 月	90	安佐北	尿路感染	尿	*Enterococcus gallinarum*	*vanC1*
2026 年 5 月	72	中	尿路感染症	尿	*Enterococcus faecium*	*vanA*

4 月及び 5 月に各 1 件の届出があった。分離菌株は *vanC1* 遺伝子を保有する *Enterococcus gallinarum* 及び *vanA* 遺伝子を保有する *Enterococcus faecium* が各 1 株であった。

(3)　多剤耐性緑膿菌（MDRP）感染症患者

届出年月	年齢	区	症状	分離検体	カルバペネマーゼ遺伝子※2	カルバペネマーゼ産生性※3
2026 年 10 月	72	東	肺炎	喀痰	検出せず	陰性

※2 検査対象カルバペネマーゼ遺伝子型：KPC, IMP, NDM, VIM, GES

※3 modified Carbapenem Inactivation Method による確認

10 月に 1 件の届出があった。分離菌株からカルバペネマーゼ遺伝子は検出されず、カルバペネマーゼ産生性も確認されなかった。

【参考】ARI 病原体サーベイランス検査結果（広島市感染症週報より）

感染症発生動向調査に基づくARI病原体定点医療機関からの搬入分のみ掲載

検体採取週	検査検体数	陽性検体数＊	インフルエンザウイルスAH1pdm09	インフルエンザウイルスAH3	B型インフルエンザウイルス（ビクトリア系統）	B型インフルエンザウイルス（山形系統）	新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）	A型RSウイルス	B型RSウイルス	ヒトメタニューモウイルス	パラインフルエンザウイルス1型	パラインフルエンザウイルス2型	パラインフルエンザウイルス3型	パラインフルエンザウイルス4型	ライノウイルス	エンテロウイルス	アデノウイルス
第40週	16	12	3					2		3	1				4	2	1
第41週	15	10	4					1						4	3		
第42週	13	11	6							1					2	2	
第43週	16	12	3							1		1		1	5	1	1
第44週	16	14	6					2						2	6	4	1

＊同一検体からの複数ウイルス検出例を含む（検査：広島市衛生研究所）

5類感染症定点情報
（令和8年10月解析分）

1．週報対象（第41週～第44週）

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	急性呼吸器感染症（ARI）	↗	7,914	232.77		11	突発性発しん	↓	9	0.44	
2	インフルエンザ	↗	887	26.09	流→	12	ヘルパンギーナ	→	32	1.52	
3	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	↓	40	1.17		13	流行性耳下腺炎		2	0.10	
4	RSウイルス感染症	↗	57	2.71		14	急性出血性結膜炎		－	－	
5	咽頭結膜熱	↗	25	1.20		15	流行性角結膜炎		14	1.76	
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	88	4.19		16	細菌性髄膜炎		－	－	
7	感染性胃腸炎	↘	362	17.24		17	無菌性髄膜炎		7	1.17	
8	水痘	↗	22	1.05		18	マイコプラズマ肺炎		11	1.84	
9	手足口病	↓	28	1.33		19	クラミジア肺炎		－	－	
10	伝染性紅斑		－	－		20	感染性胃腸炎（ロタウイルス）		－	－	

2．月報対象（10月）

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症	→	22	2.44
2	性器ヘルペスウイルス感染症		5	0.56
3	尖圭コンジローマ		5	0.56
4	淋菌感染症		11	1.22
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	↗	22	3.67
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		－	－

発生記号

前月と比較しておおむね1：2以上の増減	↑	↓
前月と比較しておおむね1：1．5～2の増減	↗	↘
前月と比較しておおむね1：1．1～1．5の増減	↗	↘
ほぼ横ばい（発生件数少数のものを含む）	→	

予測記号

流行始まり	流↗
流行中	流→
流行終息傾向	流↘
終息	終

全数把握感染症報告数（令和8年10月分）

第41週～第44週(10月5日～11月1日)報告分

類型		疾患名	広島市		全国	
			報告数	累積	報告数	累積
一類	1	エボラ出血熱	－	－	－	－
	2	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	－
	3	痘そう	－	－	－	－
	4	南米出血熱	－	－	－	－
	5	ペスト	－	－	－	－
	6	マールブルグ病	－	－	－	－
	7	ラッサ熱	－	－	－	－
二類	8	急性灰白髄炎	－	－	－	－
	9	結核	6	113	1,490	12,744
	10	ジフテリア	－	－	－	－
	11	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	－
	12	中東呼吸器症候群	－	－	－	－
	13	鳥インフルエンザ（H5N1）	－	－	－	－
	14	鳥インフルエンザ（H7N9）	－	－	－	－
三類	15	コレラ	－	－	－	1
	16	細菌性赤痢	－	－	8	61
	17	腸管出血性大腸菌感染症	4	56	315	3,763
	18	腸チフス	－	－	5	33
	19	パラチフス	－	－	2	17
四類	20	E型肝炎	－	2	41	535
	21	ウエストナイル熱	－	－	－	－
	22	A型肝炎	－	1	39	361
	23	エキノコックス症	－	－	2	19
	24	エムポックス	－	－	18	155
	25	黄熱	－	－	－	－
	26	オウム病	－	－	－	5
	27	オムスク出血熱	－	－	－	－
	28	回帰熱	－	－	－	4
	29	キャサヌル森林病	－	－	－	－
	30	Q熱	－	－	－	－
	31	狂犬病	－	－	－	－
	32	コクシジオイデス症	－	－	－	6
	33	ジカウイルス感染症	－	－	－	2
	34	重症熱性血小板減少症候群	－	3	13	164
	35	腎症候性出血熱	－	－	－	－
	36	西部ウマ脳炎	－	－	－	－
	37	ダニ媒介脳炎	－	－	－	1
	38	炭疽	－	－	－	－
	39	チクングニア熱	－	－	－	4
	40	つつが虫病	－	－	6	71
	41	デング熱	－	－	22	135
	42	東部ウマ脳炎	－	－	－	－
	43	鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9を除く。）	－	－	－	－
	44	ニパウイルス感染症	－	－	－	－
	45	日本紅斑熱	2	4	133	599
	46	日本脳炎	－	－	5	9
	47	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－	－
	48	Bウイルス病	－	－	－	－
	49	鼻疽	－	－	－	－
	50	ブルセラ症	－	－	－	1
	51	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	－
	52	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	－
	53	発しんチフス	－	－	－	－
	54	ボツリヌス症	－	－	－	－
	55	マラリア	－	－	4	41
	56	野兎病	－	－	－	－
	57	ライム病	－	－	－	4
	58	リッサウイルス感染症	－	－	－	－
	59	リフトバレー熱	－	－	－	－
	60	類鼻疽	－	－	－	1
	61	レジオネラ症	9	36	316	2,374
	62	レプトスピラ症	－	－	11	31
	63	ロッキー山紅斑熱	－	－	－	－
五類	64	アメーバ赤痢	1	6	49	429
	65	ウイルス性肝炎	1	5	22	183
	66	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	5	83	842
	67	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	－	－	6	26
	68	急性脳炎	1	8	86	485
	69	クリプトスポリジウム症	－	－	4	10
	70	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	3	27	150
	71	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	10	88	1,066
	72	後天性免疫不全症候群	－	5	92	804
	73	ジアルジア症	－	－	2	42
	74	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	1	30	465
	75	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	4	50
	76	侵襲性肺炎球菌感染症	4	19	144	2,177
	77	水痘（入院例に限る。）	－	2	46	696
	78	先天性風しん症候群	－	－	1	1
	79	多剤耐性緑膿菌感染症	1	1	29	217
	80	梅毒	6	98	883	9,615
	81	播種性クリプトコックス症	－	1	9	140
	82	破傷風	－	2	11	101
	83	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	－	－	－	－
	84	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－	2	8	64
	85	百日咳	－	29	307	4,906
	86	風しん	－	－	－	4
	87	麻しん	－	3	7	582
	88	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	－	10